思いや考えを広げ深める学び合いの実践～小学２年国語科～

１　はじめに

休み時間は賑やかにおしゃべりしているのに，授業中は静かで手を挙げない。よい姿勢で話を聞いているので分かっているのかと思ってノートをのぞくと，あれれ・・・。こんなことはないでしょうか？

高学年になるとこのような傾向が見られがちなのですが，同じ人間関係が長く続くと，低学年でも発言する児童が次第に限られてくることがあるようです。「分からないな。」「どうしてそうなるの？」「〇〇さんの考えがいいな。」など、児童の今の思いをもっと自由に話し合いながら深めることができたら・・・そんなことを感じたことはありませんか。

２「共感的人間関係を育む教育活動」

（１）　相互評価を取り入れ、お互いのよさを認め合う場の設定
～フリーのペアでたくさんのよさを見つけるために～

「しを読もう」の単元で，教材の詩のおもしろさ（擬声語や反復表現によるリズムのよさ）を味わわせた後，詩を書くことに挑戦させた。

詩が完成すると，児童は自分の詩を読んでほしい，友達の詩を読んでみたいという思いにあふれていた。そこで，自由に友達と詩を交換して読み合い，よいところを見つけてカードに書いて渡す活動を取り入れた。

詩を読むときの観点は，書く時と同様「繰り返し表現が使われているか」「リズムがよいか」「その人の気持ちが伝わるか」の３つに絞った。

・◇◇ちゃん，交換しよう。--- うん，いいよ。
・いいところめっけ。
・すげえ，〇〇君のとこに行列できてる。
　ぼくも読んでみたいな。
・ねえ，後ろの方で読まない？ --- いいね。
・わあ，カード４枚になった。

〇　自由な雰囲気の中で，たくさんの友達と作品を交換しながらよさを見つけ合った。
観点を絞ることで評価がしやすく，また，自分のよさを認めてもらえることで学習意欲が喚起された。

＜次は誰と交換しようかな・・・＞

（２）ペア学習によりお互いのよさを認め合う「まとめ」の時間の確保
～学びの価値付けにつながる「まとめ」にするために～

「まとめ」＝「授業の感想」ではない。単に「楽しかった」ではなく，本時の課題に対して学習内容を理解することができたのか，その際に大切なポイントは何だったのかを簡潔に書かせたい。

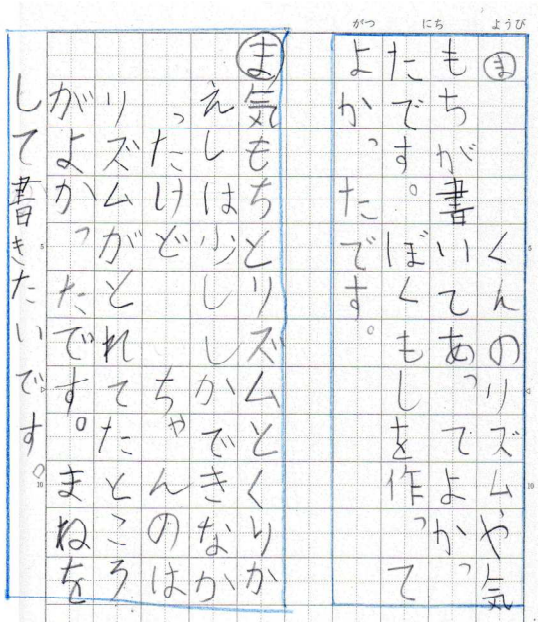
「よいところカード」により友達の表現のよさを見つけ，そして，自分の工夫した表現を認めてもらい，詩を書くときのポイントを明確にすることができた。

<よいところカード・・・ここがいいね>

・○○君の詩には，気持ちが入っていてよかった。ぼくもまねしたい。
・△△ちゃんの繰り返しがよかった。
・リズムがいいとほめてもらえてうれしかった。
・しの書き方がわかった。しを作って楽しかった。

○　ペア学習で見つけた友達の詩のよさを自分も生かそうとしたり，友達にほめてもらい詩の楽しさを実感したり，学び合いのよさが感じられるまとめとなった。それを発表することで，さらに全体に広めて，学びの価値付けを行った。

学び方や友達との関わり方をより質の高い「まとめ」にするために，時間の確保とどのように書かせるか，教師がしっかり観点を持つことが大切になる。



<子どものノート>
詩って、こう書けば
いいんだね。

３　「知識・技能を比較・検討する場の設定」

（１）グループから全体での話合い活動の充実

～発表ボードを用いた話合い活動～

「主語とじゅつ語に気をつけよう」は，児童にとって初めての学習で，主語と述語の働きを正しく理解することが難しい単元である。

まず，各自が主語と述語が照応した短文を作り，その後，グループで代表の短文を選んだ。教材文と同じように主語と述語だけの文のグループは色別カードで，修飾語も加えた文のグループはホワイトボードに書かせ，自分達で説明をさせた。

・「ほこりが」が主語で，「とぶ。」が述語です。
・「ぼくが」が主語で，「およぐ。」が述語です。
「プールで」は飾りです。
・「ごりらが」が主語です。述語は，どれでしょうか。　-----「たべた。」です。　----　正解です。

○　主語と述語を定着させるために，個人→グループ→全体と３回繰り返して考えさせた。グループ代表の文を決める際は，主語と述語の説明がしやすいものか，修飾語をつけた詳しい文にするかを自分達で話し合わせた。

＜グループの代表が説明をする「主語は・・・・」＞

比較・検討する際は，児童が説明をした方が聞く側の児童も真剣に聞くので，児童に任せた。また，同じパターンにせず，クイズ形式も取り入れることで興味も増した。色別カードに書いた短文は、学習コーナーの掲示に活用し，定着につなげた。

４　おわりに

じっと黙ってお行儀よく座っているのがよい子ども，間違いを発表するのは恥ずかしいことと考えている子どもを「自分で考えることって大切だよ。」「みんなで勉強するともっと楽しいよ。」と，何とか変えようと取り組んだ１学期。国語科だけでなく，１分間スピーチや「なかたくタイム」，図工の作品鑑賞会など，学級生活全体の中で，共感的人間関係と主体的な学習態度を育成することに努めています。

もちろんまだまだです。課題はたくさん残っています。クラスが一番盛り上がるのが，「○○さん，誕生日おめでとう。かんぱあい！」と牛乳で乾杯するときなのですから。もっと授業を盛り上げなくては。みなさん，一緒に頑張りましょう。